

「IV」七月七日(木)丸子の渡し場跡・旧中原街道・六郷用水跡

(集合：東急東横線「多摩川駅」改札口9；50厳守同刻出発します)

(1)行程：「多摩川駅」→旧中原街道→下沼部貝塚→丸子の渡し→六郷水道跡→密造院→嶺の四庚申→六郷用水「女堀」跡→観蔵院→天祖神社→御嶽山→東急池上線「御嶽山駅」

(2)食事場所：御嶽山駅付近。

1・浅間神社(古墳の丘の氏神様・祭神木花咲耶姫、大山祇神姫君山嶽霊峰富士の神、桜の花が咲き匂う様な姫・例祭6月1日・浅間信仰から各地に勧進された神社・食行霊神=身祿石碑下沼部富士講の祖、幕末勝海舟直筆)

文治年間(1185～90)創建と伝う。源頼朝が豊島郡滝野川出陣の折り夫の身を案じ追って来た政子は、草鞋の傷か痛み出し、ここで治療したと言う。亀の甲山(カメコヤマ・田園調布4-3推定四世紀後半の古墳)に登って見ると富士霊峰が見え、守り神の浅間神社に夫の武運長久を祈り、身に付けていた「観世音菩薩」をこの丘に建てた。村人は此の像を富士浅間大菩薩と呼び呼び尊崇した野が多摩川浅間神社の起こりと言う。承応元年(1652)五月表坂土留め工事の時、九合目辺りから片足の無い唐銅製せい観音観世音立像が発掘された。そこで足を鑄造し6月1日を例祭日された。浅間神社古墳；全長60m前方後円墳と推定昭和42年社殿改築時5～6世紀始め円筒埴輪、人物埴輪、動物埴輪等出土。愛桜碑(アイウ)：昭和4年多摩川新堤防補強沿岸美化目的に桜樹4千本植樹記念建立碑

2・旧中原街道

中原街道：江戸虎ノ門を起点として三田、馬込、丸子、佐江戸、瀬谷、用田、を経て相模川を越え、平塚を結ぶ道、江戸城へ運ばれる、お酢街道、江戸猿町を通っていたので猿町街道とも、江戸間道(カドマチ)、小杉では肥やし街道、相州街道とも。

既に近世以前に存在し、徳川家康が江戸入国の祭利用され、後部分改修された道。江戸初期に

は参勤交代の道としても利用されたが、東海道が整備されると、脇往還として江戸への物資の流通や将軍の鷹狩りなどしばしば利用された。又、東海道より平塚からは短距離であったため急ぎの旅人に近道として好まれた。

3・下沼部貝塚（田園調布本町3537～42付近現在住宅地）

縄文時代後期、・晩期(2500～3000年前頃)の貝塚。ハマグリ、ハイガイ等貝類等・縄文土器、石器、土偶、土版、耳飾等遺物出土。シカ、イノシシ等獣骨大量し有名な貝塚貝塚。

4・東光院（上の寺・真言宗智山派・有慶山延命寺・本尊大日如来弘法大師興教大師・寺宝聖観音像銅製伝鎌倉尼将軍政子持仏）

寛文年間（1661～73）の開基、第1祖は義賢。元小杉西明寺末（川崎市中原区所在）。

○西明寺（真言宗智山派・本尊、大日如来・寺宝、十一面観世音菩薩＝伝行基作・弁財天＝出世弁天）
小杉学舎中興の祖北条時頼伝説有り，出世弁天境内に祀る。国家安全の文字の石碑（天保年間日本外交をめぐる揺れ動いた時期，1830～44）。明治6年「小杉学舎」本堂を借りて誕生，明治34年参道脇に尋常中原小学校が出来，同所に青年団集会所としても使用され当時の「二宮金次郎像」今もある。

5・六郷用水跡

徳川家康の命により代官小泉次大夫吉次が指揮し、慶長2年（1597）着工し、慶長16年（1611）に完成。和泉村（狛江市）の多摩川分流から取水し、世田谷領を経て沼部・嶺・下丸子を通り、矢口の「南北引き分け」で、二つに分かれた。池上・新井宿方面に流れる「北堀」と、蒲田・糝谷・六郷方面（六郷領・大田区）に流れる「南との南北堀」でした。全長30km。丸子川として残る他、次大夫堀公園内に復元されている。

6・丸子の渡し跡（マルゴ・現田園調布本町=沼部と川崎市中原区上丸子を結ぶ渡し場・昭和9年1934丸子橋完成）

田畑に使う下肥を手に入れる為、1日掛かりで東京五反田や大崎、三田辺りまで荷車を引いて出掛けた農家の交通機関は丸子橋が完成するまでは唯一の交通機関。川崎側では、渡し場近く迄、松原通りの家々が並び、東横線鉄橋から上流にかけて青木根集落もあり、砂利取り、舟づくりの人々が多かった

様だと言われ、数々の言い伝えもあり、昔から「特別な場所」とされていた。此処から埴輪なども出土し、古墳だったことが大正10年の築堤工事時分かった。此の工事を境に青木根、松原の集落は河原から姿を消した。

7・密蔵院（真言宗智山派・明樂山森ッ立寺・本尊大日如来坐像寛永11年1634作非公開・青面金剛尊寄木造三面六臂立像二童子四夜叉等江戸初期作、庚申信仰本尊庚申堂安置・庚申尊祭年3回・寺宝弘法興教両大師坐像寛永7年1630作宝暦7年1757修復非公開・観世音菩薩像7体伝鎌倉期作・舟形石に地藏立像半肉彫江戸初期・庚申供養塔寛文元年1661作区内最古江戸初期）

開山年代不詳。総代森功の先祖2代目森主兵衛（元和2年叔）が改築以来現山号に改めたと言う。

8・嶺の四庚申（江戸時代村堺に悪疫等入らない様建立・移設されたため所在地変わっているもの有り）

隣接する村名「下沼部」（西峰町25番路傍）庚申塔。

9・隣接する村名「鵜の木」（鵜の木1-2崖上）庚申塔。

10・隣接する村名「久が原」（東峰町31白山神社境内）庚申塔。

11・隣接する村名「雪が谷」（東峰町42番路傍）。庚申塔。

12・六郷用水「女堀（ナメリ）」跡

次大夫堀施行に時、土工に女1割を当てたので女堀とも言う説と、代官小泉次大夫（ジダユ）が浅間神社の丘近くを工事しようとした時、夢に現れた女神（神社の祭神木花咲耶姫命）のお告げで、丘を切り崩さずに迂回して工事を進めた事から女堀と呼ばれたとの説。日本格地に女堀の名前残り、その言われも様々なようです。

13・観蔵院（光明寺真言宗の頃の加行道場と伝う）

薬師如来坐像（木造一木彫玉眼像高42cm）非公開；胎内銘札に当院三前身正善寺三世順侑による寛文元年（1661）造立と言う。順侑が三河国（愛知県）鳳来寺峯の薬師如来を勧請し、当院別堂、薬師堂の本尊として安置したと伝う。「峯の薬師」として信仰された。近年修復が加えられたが作風はよい。つげ古木；高さ7m、枝張り9m寄植されていたものが癒着1株になったと思われる。樹齢300余年。

○光明寺（浄土宗・大金山宝幢村トウ院・本尊阿弥陀三尊善導大師・寺宝四天王立像承応3年法眼左京

作都重宝、電溜観世音菩薩聖徳太子作、安産腹帯地藏尊及び開運出世弁財天空海作)

天平年中(749~57)行基によって草創。弘仁年中(810~24)空海の再興で関東高野山法幢院と称し7堂伽藍を有した。関東弘通念仏最初の道場と定め現山寺号命名。延応年中(1239~40)本派鎮西ヲベイ派三祖良忠記主が中興して住職し鎮西に転派。

14・稻荷神社

15・天祖神社(禰宜村 舞毎年4月21日豊作と厄払祈願)

舞は、付け神楽(祓いの舞)から始まり、猿田彦命舞他、五座の神楽が奉納。舞が終わると「お湯花」儀式。禰宜舞は江戸時代が続く舞で、農村だった頃の生活文化知る事が出来ると言う。

○本覚寺(日蓮宗・本尊日蓮上人奠定ヲテイ?大曼陀羅・寺宝宗祖木像元禄12年1699作区文)元和2年(1616)本覚院日立大徳の開基。安政年間(1854~60)に改築。昭和20年戦災、同29年より本堂再建同32年落成。後、庫裏稻成堂再建同35年境内整備完了。

16・御嶽神社(オウタケノヅカ・祭神国常立ニノコト好命国土開闢、国狭槌命、豊雲野命・例祭9月17・18日・芸能皐月祭5月18日・神紋三ツ山丸三・社宝本殿周囲の社殿彫刻司馬温公他5作者伝藤原篤意ヲツキ、社殿同時期天保2年1831作額3点区文・浦島太郎、養老の滝、司馬温公薨割ヲコウカマリ等和漢の物語故事にちなんだもの)

文化年間(1804~18)木曾御嶽山に参籠した修験者一山行者(イツサン・嘉永4年1851・12月20日神田見富家隠宅没)が、神夢にしたがって下山、江戸の嶺村に御嶽大神を祀った小祠を発見し、そこに庵を造って布教した。木曾御嶽関東第1分社となった。

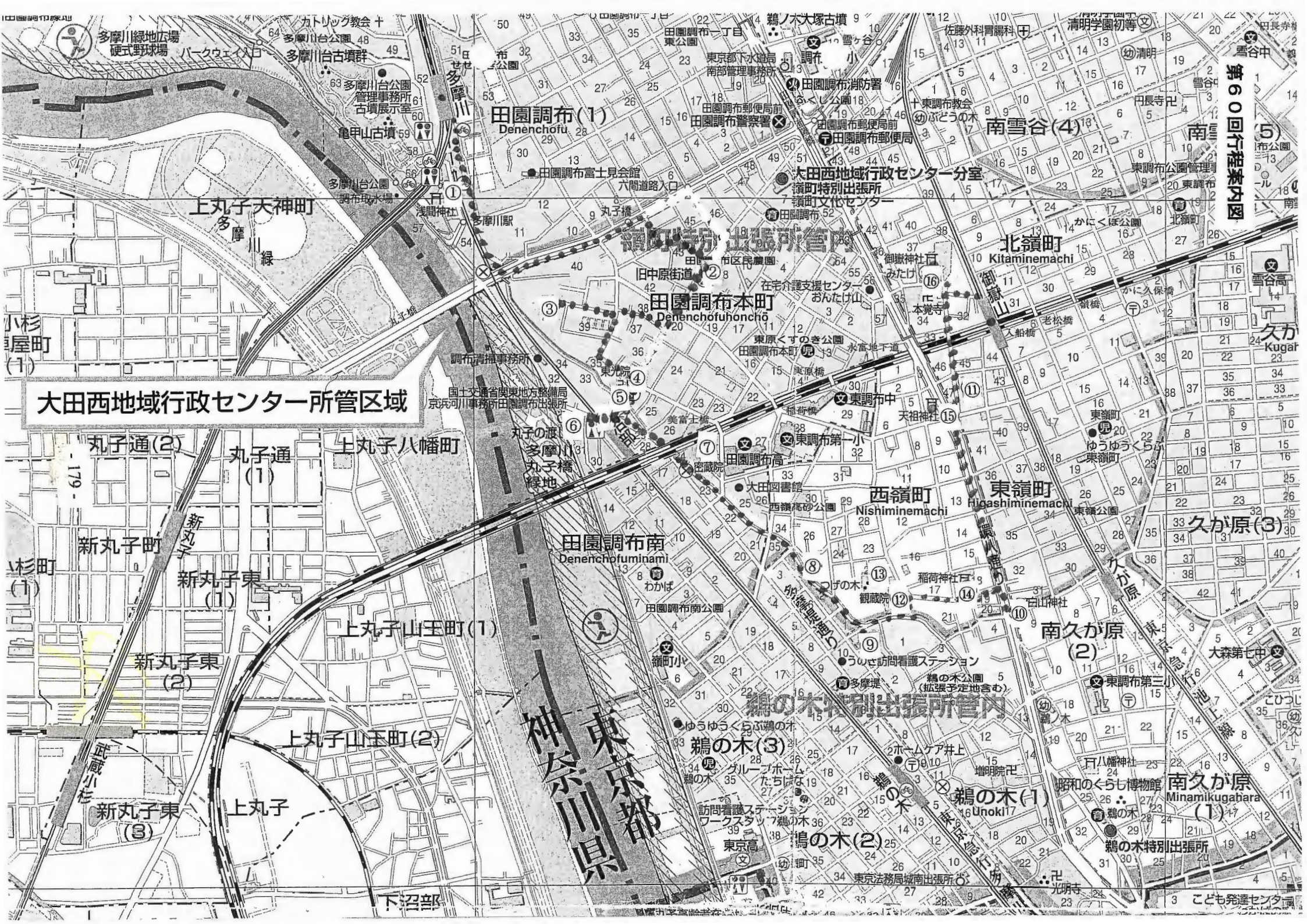
○司馬温公(司馬光・1019~86);北宋(中国宋)の政治家・学者。字は君実。涑水(ソクスイ?)先生と称す。山西(サノイ中国)の人神宗(シンソウ・北宋第6代皇帝)の時、御史大夫(ギョウツウ・中国官位)王安石(ワアンセキ・中国政治家)の新法の害を説いて用いられず政界引退、力を「資治通鑑」(ジツカン・治世に利益有って歴代為政者への鑑みとするに足りる通史の意)の撰述(センゾウ・著書)に注いだ。哲宗の時に執政(シツセイ)、旧法を復活させたが、数ヶ月で病没。太師温国公を賜り司馬温公と尊称。

○延命地藏;昭和13年(1938)阪神大水害の折り兵庫県西宮市を流れる夙川(シュカガリ)の土手にあった地藏様の傍らで数人の女の子が助かった。中でも、我が子の命を救ってくれた事に感謝した前田氏

が、荒れ果てた土手からお地藏様を私邸に引き取った。大田区千鳥町に移住後、前田ハルエさんから
お世話を引き継いだ岡町僖子（ヨシコ）さんにより平成9年（1997）、当地に安置された。

○平成6年7月30日御獄神社遍座160周年記念祭・平成23年木曾御嶽山御輿渡御祭記念写真境内展示。

○一山霊神事績；一山神社祭神は一山、俗名治兵衛、神奈川県津久井村出身埼玉県与野、井原家に婿
入り移住したが「下化衆生」の本願を叶えようと井原家を離れて、仏門修業行脚木曾御嶽修行中「御
嶽三社」の大神達が夢に現れ霊験を賜る。一山霊歌「無の上に 浮きて楽しむ心こそ 誠の道の宝な
りけり」。



大田西地域行政センター所管区域

東京都
神奈川